令和２年度　学校評価まとめ

１　今年度の重点目標（学校経営方針より）

（１）「学びがい」をもって学習に取り組み、学力が向上していく生徒の育成
（２）思いやりの心をもち、お互いの良さを認め合い高め合う生徒の育成
（３）自ら考え振り返り、すすんで実行する生徒の育成
（４）礼儀正しくあいさつや掃除がしっかりとできる生徒の育成
（５）個別に課題を抱える生徒への支援の充実
（６）家庭・地域とともにある学校運営（コミュニティスクール）

２　自己評価の結果

《自己評価Ａの結果と考察》

		調査項目	１回目	２回目			調査項目	１回目	２回目
1	①学びがい	授業規律	3.42	3.29	13	③主体性	人間関係の構築	3.12	3.03
2		学び合い	3.31	3.23	14		危機管理能力	3.27	3.06
3		発問、説明、板書	3.31	3.32	15		進路指導・ｷｬﾘｱ教育	3.19	3.17
4		ICT 機器の活用	3.19	3.03	16	④歌声	表現力の育成	3.41	3.10
5		評価・評定	3.69	3.71	17		音楽集会	2.71	2.25
6	②思いやり	あいさつ	3.67	3.67	18		行事における音楽指導	2.95	3.10
7		学級経営	3.41	3.31	19	⑤地域	保護者・地域対応	3.76	3.48
8		道徳教育	3.28	3.11	20		家庭との連携	3.45	3.34
9		清掃・集会指導	3.30	3.34	21		地域の教育力の活用	3.06	2.91
10		規範意識	3.30	3.38	22		幼小中高連携	2.73	2.44
11	③主体性	学級活動	3.25	3.21	23		関係諸機関との連携	2.85	2.84
12		生徒会活動	2.91	3.06					

５「評価・評定」（重点１）、６「あいさつ」（重点４）、１９「保護者・地域対応」（重点６）は、重点目標の中で 3.5 を超えた結果となった。全体的に 3.0 を上回っており、職員が学校教育目標の達成を意識しながら教育活動に取り組むことができていることが伺える。

２１「地域の教育力の活用」（重点６）、２２「幼小中高連携」（重点６）、２３「関係諸機関との連携」（重点６）は 3.0 を下回り、コロナ禍の状況において今後の課題と考えられる。

今年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止の対応を行いながら、教育活動を行っていかなければならなかった。授業においては、話し合い活動や体験型の活動を制限しながら実施し、「主体的・対話的で深い学び」を進めている。学校行事においては、密になる全校での集会を控えたり、校外での学習や、地域と触れ合いながら学習したりすることも制限している。そうした要因が考えられる結果となった。

《自己評価Ｂの結果と考察》

	調査項目	1回目	2回目		調査項目	1回目	2回目
1	学校教育目標	3.21	3.17	13	進路指導・ｷｬﾘｱ教育	3.25	3.05
2	教育課程	3.27	3.25	14	健康・安全指導	3.32	3.11
3	校務分掌	3.32	3.33	15	給食指導・食育指導	3.23	3.17
4	教科指導	3.17	3.23	16	校内環境	3.14	3.13
5	評価活動（学習評価）	3.44	3.30	17	情報教育(ICT活用)	3.30	3.36
6	人権教育	2.91	2.94	18	学校図書館教育	2.70	2.44
7	道徳教育	2.92	2.98	19	学校行事	3.10	3.11
8	特別支援教育	3.09	3.00	20	校内研修	3.03	2.96
9	生徒会活動	2.88	2.77	21	施設・設備	3.32	3.13
10	総合的な学習の時間	3.17	3.11	22	地域との連携	2.78	2.79
11	学級活動	3.00	3.00	23	職員関係	3.22	3.26
12	生徒指導・教育相談	3.30	3.14				

全体的に、3.0を超えており、全職員が学校教育目標の達成を目指し、バランスのとれた教育活動を展開できていると感じている。３「校務分掌」、５「評価活動」（重点１）、１７「情報教育(ICT活用)」（重点１）、２３「職員関係」（重点２）の項目が比較的高く、職員間で協力をしながら、それぞれの校務分掌の責任を果たし、充実した教育活動を行うことができていた。

６「人権教育」（重点２）、７「道徳教育」（重点２）、９「生徒会活動」（重点１）、１８「学校図書館教育」、２２「地域との連携」（重点６）では、3.0を下回る結果となった。

重点目標１の取組として、新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、ICT機器（タブレット等）を積極的に活用して、リモートによる学校行事や集会の実施や、他団体との講演会などを実施し、今後の活動の見直しや改善の参考となる経験を積むことができた。

重点目標３の取組として、今年度は、登下校時のマナーの向上を目指し、生活委員会が中心となって取組を行い、啓発の動画を作成して生徒朝会で放映するなど、交通マナーの向上に力を入れて活動した。また、生徒指導連絡協議会の取組の一つとして、生活委員会主体でマナー標語を作成し、横断幕にするという活動を進めている最中である。よりよい学校づくりを生徒自身の手で進めていく生徒会活動の推進を引き続き行っていく。

重点目標５の取組として、今年度は「生徒支援のための教室(レインボールームと命名)」を設置した。学校に登校しづらくなってしまった生徒や不登校生徒と学校・さわやか相談室をつなぐ位置付けの教室である。児童生徒支援加配教員を主担当とし、家庭と学校をつなぐ橋渡し的な機能を果たした。実際に、教室を利用することで学校に登校し学習することができる生徒が増え、効果を実感している。

重点目標２・５における課題として、コロナ禍における対応や今日的な課題となっている LGBTQ をはじめとする人権教育や道徳教育の充実が挙げられる。今後、理解をより一層深めていかなければならない社会的な課題として、教員が意図的に問題提起をしながら、公平・公正な感覚をも

ち、相手の気持ちに寄り添ったり、感謝の気持ちを行動に表したりすることができる生徒の育成を進めていく。

3　生徒アンケートの結果

	調査項目	R2		調査項目	R2
1	学校生活	3.6	9	ルール（学校生活）	3.5
2	授業	3.3	10	あいさつ	3.4
3	学習課題	3.0	11	交通ルール・マナー	3.7
4	ＩＣＴ機器の活用	3.4	12	言葉遣い	3.3
5	協働学習	3.4	13	ボランティア	2.4
6	振り返り	3.2	14	他者との関係	3.6
7	学校行事	3.6	15	清掃活動	3.6
8	生徒指導	3.3	16	部活動	3.4

3.5を上回る評価となった項目は、１「学校生活」（重点１・３）、７「学校行事」（重点３）、９「ルール(学校生活)」（重点１）、１１「交通ルール・マナー」（重点３）、１４「他者との関係」（重点２）、１５「清掃活動」（重点４）であった。

本校の生徒は、全体的に前向きに学校生活全般に取り組んでいる（重点１・３）。特に学校生活のルールを守り、他者を大切にしながら学校行事や清掃活動等の諸活動に取り組んでいることが伺える（重点２・４）。授業面では、協働的に学びながら ICT 機器を活用することで理解の深まりを感じているようである（重点１）

「交通ルール・マナー」の結果は高くなっているが、もう少し学校全体としての意識を上げていかなければならない状況が見られる。先述した委員会活動を通してのはたらきかけなど、生徒が主体となり啓発を行っている最中である。今後も継続した取組を通じて意識の高揚を図っていく。

4　保護者アンケートの結果

	調査項目	R2		調査項目	R2
1	学力向上	3.1	14	他者との関係	3.2
2	共感	3.2	15	学校経営	3.2
3	自立	3.2	16	安全指導	3.3
4	あいさつ・清掃	3.3	17	教育活動	3.1
5	授業内容	3.1	18	情報公開	3.5
6	学習態度	2.8	19	一人ひとりを大切にする教育	3.2
7	家庭学習の習慣化	2.8	20	個人情報	3.4
8	学習評価	3.2	21	生徒理解	3.3
9	進路指導・キャリア教育	3.1	22	教育相談	3.3
10	生命・思いやり	3.3	23	体力向上・健康	3.3
11	いじめ防止	3.1	24	家庭との連携	3.4
12	社会のルール	3.3	25	学校行事	3.0
13	あいさつ・礼儀	3.3			

全体的に 3.0 を超えており、保護者の立場からも学校の教育活動に対して良い評価をしていただいていると考えられる。比較的、数値が高かった項目は、４「あいさつ・清掃」（重点４）、１０「生命・思いやり」（重

点２)、１２「社会のルール」(重点６)、１３「あいさつ・礼儀」(重点４)、１６「安全指導」(重点１)、１８「情報公開」(重点６)、２０「個人情報」(重点６)、２１「生徒理解」(重点５)、２２「教育相談」(重点５)、２３「体力向上・健康」(重点１)、２４「家庭との連携」(重点６)である。

課題となった項目は、6「学習態度」(重点１)、7「家庭学習の習慣化」(重点１)の二つのみであった。今年度においては、新型コロナウィルス感染症拡大防止の対策のため、学校行事の無観客対応や年度当初の授業参観・保護者会を実施できなかった。そのため、生徒の活動（学習や学校行事の取組）の様子を直接お見せする機会がなかったことが残念である。その代わりとして、学校だよりでの近況報告や学校 HP の積極的な更新、体育祭・合唱祭における写真・DVD 販売、三者面談時に学校行事の動画閲覧の機会を設けるなどの対応を行ってきた(重点６)。

学習に対する保護者の心配があるのは、毎年のことである。今年度は、学校課題研究の一環として、e ライブラリアドバンスを活用した家庭学習に取り組んできた(重点１)。今後も、学校が課題（宿題等）を提示し、家庭で学習教材に取り組むことで、家庭学習の習慣化や学力向上につなげていく方針である。

【保護者が「学校で特に身につけさせたいこと」「学ばせたいこと」】

「基礎的な学力(読み・書き・計算)」「社会性」「コミュニケーション能力」が上位３つの項目となった。保護者は、毎日の授業を教員がしっかりと行い、我が子の基礎学力の定着を望んでいる。また、学校生活の中で、他者とよく関わり合うことで「社会性」や「コミュニケーション能力」を身に付け、より良い人間関係を形成してほしいと感じている。これらのことから、いつの時代においても変わらず必要であると考えられる能力の育成を学校教育に求めていることが分かる。

５　学校関係者評価としていただいた御意見・御感想

・生徒や保護者のアンケート結果から、先生方が生徒を理解していると感じられているのは嬉しいことであると感じます。
・今年度の自己評価では、全体的に２回目の評価が高くなっている傾向にあります。継続してきた取組が生徒・家庭に理解され、先生方の意識の高まりとなって表れた結果だと感じます。
・生徒、保護者アンケートの結果を見ると、学校教育が比較的安定した状況で進められていると考えられ、学校への保護者の信頼が年々高まってきている傾向にあると言える。
・生徒自身が主体的に学校づくりに関わるような生徒会活動を推進していくとあるが、できることなら学校運営協議委員も生徒会役員などの代表生徒から生の声を聴いて理解を深め、支援につなげることができればと思う。
・校舎外壁の老朽化が目立ちます。中学校は地域のシンボルとなる学びの場です。安全の面においても修繕をお願いしたい。
・自己評価において低い数値となっている項目がありますが、現下の厳しい状況に妥協せず、より向上させるという意識の表れが低い数値に

つながったと感じています。
・家庭学習の習慣化については、個人差が見られ把握が難しいと思います。より一層家庭との連携を図り取り組んでいってください。
・家庭学習について積極的に取り組んでいくことは保護者として大変嬉しいことですが、スマートフォンやタブレットの家庭での使用方法に悩んでいる親が多い中、学校でのタブレットの利用が更に増え、それに向き合う時間が増えることに不安があります。
・学校に行けない生徒への対応として、会話だけでなく文字やイラスト等を通じてコミュニケーションを図るなど工夫が必要である。そこに地域が協力できればなお良い。新しくできる公共施設に学校外で勉強できるフリースペースの開設などを考えると良い。